

総会の冒頭であいさつする三矢代表理事



メディカル・デバイス産業振興協議会

18年度総会を開く

メディカル・デバイス産業振興協議会(代表理事 三矢誠・名古屋商工会議所副会頭)は30日、名古屋市中区栄の名古屋商工会議所で、2018年度総会を開いた。会員100人が参加した。本年度の事業計画案や収支予算案を承認した。総会冒頭、三矢代表理事が「協議会は今年で7年目

産学官連携を一層強化へ

を迎え、活動の成果が表れてきた。今後とも産学官連携を一層強化し、医療機器産業へ挑戦する会員の皆さまをサポートしていく」とあいさつした。18年度事業計画では、医療機器の展示商談会「メディカルメッセ」(2019年開催)の準備や、中部圏の医療機器産業の実態調査

などの事業を盛り込んだ。また、会員企業の曙工業(安城市)と、タキゲン製造(東京都)の2社が、自社の取り組みを紹介した。総会後の講演会では、京都大学大学院医学研究科の奥野恭史教授が登壇。人工知能(AI)やビッグデータの活用で進化を遂げている医療の現状と未来について解説した。

協議会は12年設立。産学官の連携により、中部地域における医療機器関連産業の振興と発展を目指している。会員数は139社・団体(3月31日現在)。30日付で、筒井宣政氏(東海メディカルプロダクツ会長)が理事を退任(幹事長は留任)し、後任理事に筒井康弘氏(同社長)が就任した。